1 日常点検　2〜3日ごとに点検してください。

点検項目	方　法	点検内容
負荷電流	電流計	銘板記載の定格電流以内であること
騒　音	聴　感	異常音（ガタゴト音、周期音）がないこと
	聴音棒	軸受部聴音棒を使用すると異常音がわかり易い
振　動	触　感	ギアケース、モータフレームの異常振動がないこと
表面温度	温度計	80℃以下のこと
グリース漏れ	目　視	ケース、オイルシール、ブラケット等の接合部から漏れていないこと

2 定期点検（８時間／日運転を想定します）

点検項目		点検目安	点検内容
据え付けボルト		半　年	スパナでゆるみ確認　ゆるみは増し締め
チェーン及びVベルト		半　年	張り具合（ゆるみ、張りすぎ）の確認 ゆるみ、張りすぎは調整してください
モータの絶縁抵抗		半　年	絶縁抵抗器で500Vの時１MΩ以上のこと
ブレーキ	ギャップ量	１年または ブレーキ使用回数 100〜150万回	適正ギャップ範囲か確認 調整はP24〜25を参照して行ってください
ブレーキ	摩擦板の厚さ	１　年	摩擦板の厚さを確認 1.5mm以下の時は交換又は専門工場で修理してください

点検にて異常が認められた場合は、「故障の原因と対策」P27を参照して対策処置を行ってください。

3 ブレーキギャップの調整方法

◇! 危　険

1　ギャップ調整時は、必ず電源を切って行ってください。けがの恐れがあります。
2　ギャップの点検、調整後は、本運転する前に電源を入、切してブレーキの動作を確認してください。落下、暴走事故のおそれがあります。
3　点検、調整後は、ファンカバーを外したままモータを運転しないでください。巻き込まれ、けがのおそれがあります。

(1)　ブレーキ付ギアモータのブレーキギャップの調整方法

ブレーキを長時間使用いたしますと、摩擦板が摩耗しギャップ〔g〕が徐々に大きくなります。ギャップ〔g〕が吸引可能ギャップより広がりますと、マグネットを励磁してもアーマチュアの吸引が困難となりブレーキの解放ができなくなります。

その後も使用し続けますと、ブレーキが効いたままモータを回すことになりますので、ブレーキやモータの異常発熱を起こしブレーキモータの機能を低下させます。本機を安全に使用していただくために定期的（約１年毎又はブレーキ使用回数100～150万回毎）にギャップの点検又は調整を行ってください。

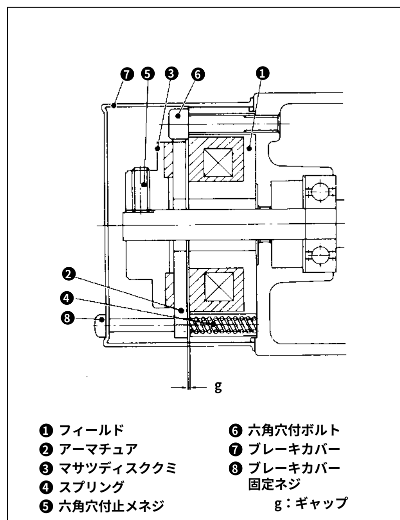
■ギャップの調整方法（モータ容量呼称　T50・T50W）

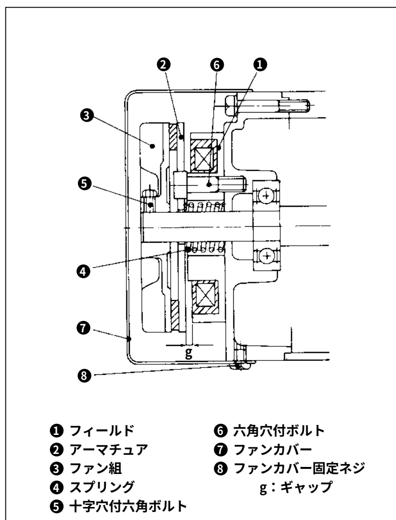
●減速比1/240以下の場合

①ブレーキカバーを取りはずします。
②六角穴付止メネジをゆるめ、マサツディスククミをはずします。
③フィールドとアーマチュアの間に0.2～0.3mmの板をはさみマサツディスククミを押し込みます。
④六角穴付止メネジにゆるみ止めを塗布して締め込みます。
⑤0.2～0.3mmの板をはずします。

●減速比1/300以上の場合

①ファンカバーを取りはずします。
②十字穴付六角ボルトをゆるめ、ファン組をはずします。
③フィールドとアーマチュアの間に0.4～0.5mmの板をはさみファン組を押し込みます。
④十字穴付六角ボルトにゆるみ止めを塗布して締め込みます。
⑤0.4～0.5mmの板をはずします。





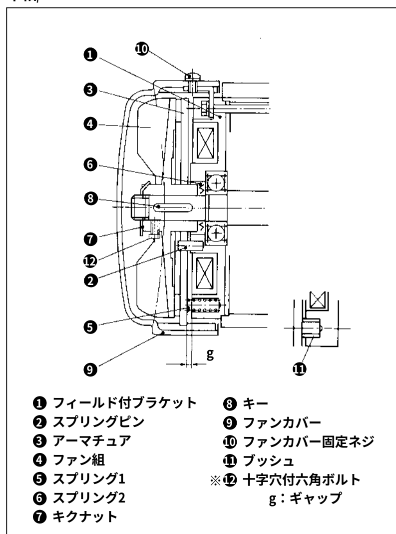
モータ容量呼称		吸引可能ギャップ	適正ギャップ
三相	単相		
T50・T50W減速比 1/240以下	―	g:0.5以下	g:0.2±0.1
T50・T50W減速比 1/300以上	―	g:0.8以下	g:0.4±0.1

■ギャップの調整方法

①ファンカバーを取りはずします。
②十字穴付六角ボルト（S100、100、200、S100W、100W、200Wの場合）もしくは六角穴付ボルト（400、400Wの場合）をゆるめ、キクナットの歯をファン組の溝より起こし、はずします。
③キクナットを軽くロックするまで締め込みます。
④今度はゆるめる方向に100°～180°位もどします。ギャップ量が適正ギャップであることをスキミゲージなどで確認します。
⑤ファン組の溝に一番近いキクナットの歯を折りまげ、十字穴付六角ボルト（S100、100、200、S100W、100W、200Wの場合）もしくは六角穴付ボルト（400、400Wの場合）を締めます。

■モータ容量呼称

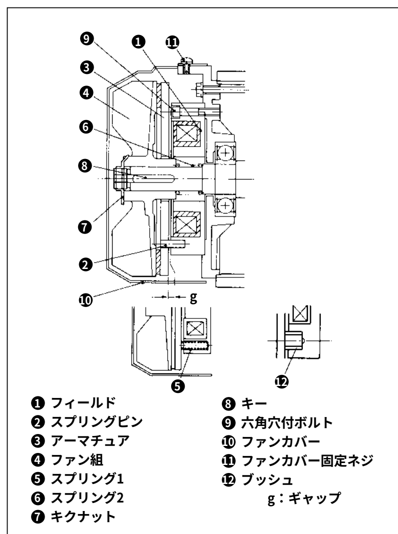
三相/T010・T020・T040・075・T010W・T020W・T040W・075W
単相/S100・100・200・400・S100W・100W・200W・400W



※印の⓬のボルトはS100・100・200・S100W・100W・200Wの場合のみ、400・400Wは六角穴付ボルトです。

■モータ容量呼称

三相/150・220・150W・220W



モータ容量呼称		吸引可能ギャップ	適正ギャップ
三相	単相		
T010・T020・T010W・T020W	S100・100・200・S100W・100W・200W	g:2.3以下	g:1.9±0.1
T040・T040W	−	g:1.8以下	g:1.4±0.1
0.75・0.75W	400・400W	g:2.4以下	g:2.0±0.1
150・220・150W・220W	−	g:1.0以下	g:0.4±0.1